

京都府知事 山田啓二 様

陸上自衛隊福知山射撃場の米軍による使用受け入れ 表明に強く抗議し、撤回を求める。

日本共産党京都5区国政委員長 山内 健

日本共産党京都府会議員団 団長 前窪義由紀

山田知事は昨日14日に、稲田防衛大臣に宛て、「陸上自衛隊福知山射撃場の米軍による限定使用について」と題する文書を渡し、この件についてのコメントを発表した。これは、今月7日に知事が福知山市長とともに行った稲田防衛大臣への要請に対し、近畿中部防衛局長名による回答が寄せられたことを受けたものである。その内容は、防衛省が回答した事項の「早期・着実な実行」と「安全管理対策と騒音対策などに万全を」期すように求めるものとなっている。

しかし、これは事実上、福知山射撃場の日米共同利用施設化を認め、米軍による実弾射撃訓練を受け入れる意向を示したものであり、断じて認められない。わが党議員団は、断固抗議するとともに、速やかに受け入れを撤回するよう求めるものである。

防衛省の回答について、知事はコメントで「誠実に対応する旨」のものと評価しているが、例えば使用日数等の要請については「重く受け止め、遵守に努めます」としているだけで、騒音対策についても、これから実態調査を行い対策を検討するというものにすぎない。これまで「大型バスによる移動」や「交通安全ルールの遵守」等、京丹後市経ヶ岬の米軍レーダー基地設置時の約束がことごとく反故にされてきた実態からも、単なる口約束に過ぎないことは明らかである。

防衛大臣への要請の際には、回答に不十分な点があれば再回答を求めるとの意向も示していたにもかかわらず、今回、知事がいち早く事実上の受け入れ表明をしたことは、「流れ弾で事故が起こらないか」「米軍は約束を守ってくれるのか」など住民の不安に向き合い、安心・安全を守る点からも、きわめて無責任な対応であり、米軍の都合を何よりも優先する姿勢である。

そもそも、日米共同利用施設の拡大は、「新ガイドライン」など日米の軍事一体化がすすむ中、かねてから米軍が強く求めてきたもので、自衛隊大久保駐屯地や桂駐屯地も、その対象とされているところである。京都では、近畿で初めての米軍基地が「経ヶ岬通信所」として設置され、住民の不安や批判、基地撤去を求める声はさらに広がっているが、第二の米軍基地となる福知山射撃場の米軍利用は、断固として拒否すべきであり、米軍による実弾射撃訓練を受け入れないため、府民とともにあらゆる行動をとることを強く求めるものである。

以上